

Endogenous Price Leadership and Technological Differences

矢野誠

慶応大学経済学部

小松原崇史*

慶応大学大学院

本研究では、同質財の価格競争における先導者と追随者が、内生的にどのように決定されるかを検討する。とくに、本研究では先導者と追随者の内生的決定要因として企業間の技術格差に注目し、より優位の技術を持っている企業が先導者となることを示す。先導者と追随者の内生的決定要因として、企業間の限界費用曲線の位置の違いで表される技術格差を考慮する点に、本研究の特徴がある。

本研究のモデルは、矢野誠著『ミクロ経済学の応用』（岩波書店、2001年）の研究をベースにした2期2企業からなるモデルである。各企業の技術は、限界費用曲線の位置によって表され、限界費用曲線がより下方に位置する企業が技術優位の企業であり、より上方に位置する企業が技術劣位の企業である。

各企業は、1期目に先導者になるか追随者になるかを選択し、その選択に応じて、2期目に価格競争が行われる。1期目に、一社が先導者になることを選択し、もう一社が追随者になることを選択する場合、2期目には、先導者、追随者の順に価格を設定するシュタッケルベルグ的な価格競争が行われる。一方、1期目に、両社が先導者になることを選択するか、あるいは両社が追随者になることを選択する場合、2期目には、両社が同時に価格を設定する価格競争が行われる。

本研究は、このモデルにおいて、1期目に技術優位の企業が先導者になることを選択し、技術劣位の企業が追随者になることを選択する組み合わせが、均衡となることを示した。このことは、技術水準が、価格競争におけるリーダーシップの獲得に有利な影響をもたらすことを意味する。

*報告者